

汚染試験機 DT-W

*堀田 浩崇

懸濁水流下式 高圧洗浄機能付



■概要

屋外での風雨による泥の付着と高圧洗浄機での洗浄を想定した試験機です。

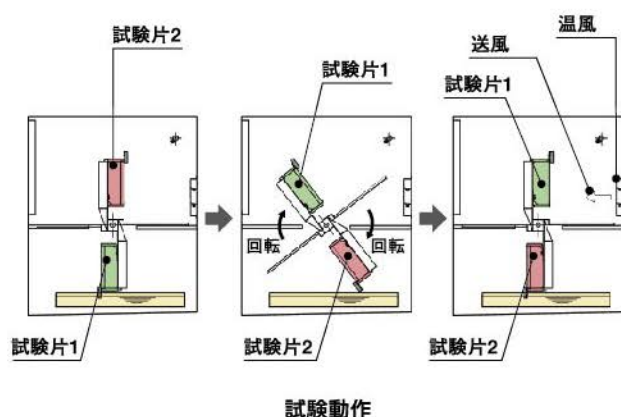
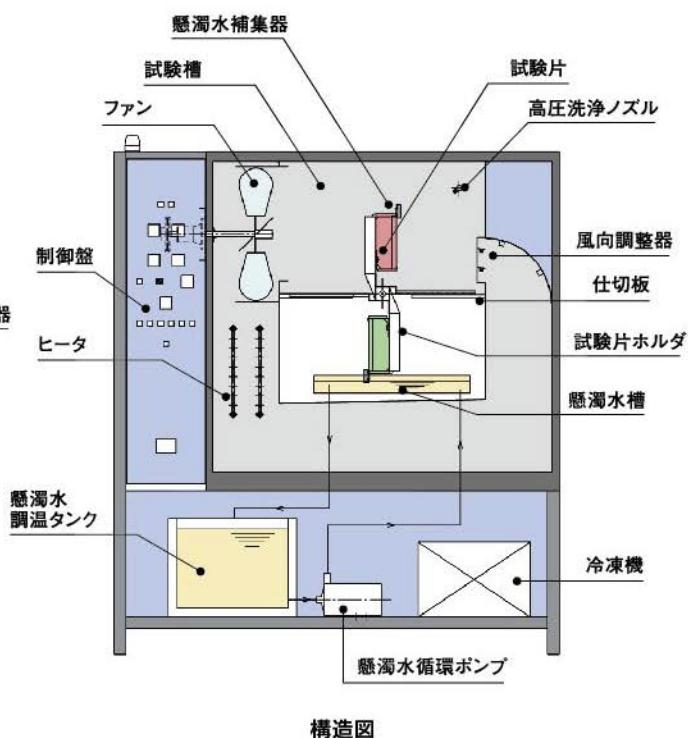
人工の泥としての汚染物質を含んだ懸濁水を試験片表面に均一に流下させ、その後温風を当て乾燥させます。これを規定回数繰り返した後に市販の高圧洗浄機相当のスプレ水で試験片表面を洗浄します。

懸濁水の試験片表面への流下は、十字回転翼を180°回転させて下部の懸濁水槽より補集器により懸濁水をすくい上げ、試験片表面に流下させる機構です。

■特長

1. 試験片表面への懸濁水流下は一般財団法人建材試験センター規格JSTMJ 7602*方式で、試験片に均一に懸濁水を流下。
2. 試験片は4枚×上下2セットで8枚同時に試験。
3. サイクル回数、乾燥時間、試験終了後の洗浄時間を自由に設定。また、試験終了後の洗浄を手動で行うことも可能。
4. 高圧洗浄は市販の高圧洗浄機と同等の能力で1段に付く4個の試験片を同時に洗浄可能です。各試験片ごとに別々のノズルを試験槽内に設置、ノズル首振り機構により試験片表面をなめるように洗浄水を当てることが出来ます。

*「建築用外壁材料の汚染促進試験方法」



■仕様

試験条件	(1)懸濁水槽 懸濁水液温度条件 温度制御無し (2)試験槽 温度:(RT+10)~80±2℃ 湿度:30~80±5%rh (60℃に於いて)
試料寸法	幅120×長さ200×厚さ2~20mm
試験片取付数	8枚
試験槽内寸法	約幅78×奥行60×高さ90cm
本体寸法	約幅169×奥行175×高さ197cm
電源容量	3相 200V 約46A

ワンポイント

建材試験センター規格(JSTM J 7602)では、汚染試験の種類により、用いる汚染物質も違います。

汚染物質の種類と配合（以下、同規格より抜粋掲載）

表2. 污染物質流下法

種 類	質量比(%)
カーボンブラック(チャンネルブラック)*3	5.0
イエローオーカー(合成黄土)*4	67.5
焼成関東ローム(試験用ダスト8種)*5	22.5
シリカ粉(試験用ダスト3種)*6	5.0

表3. 汚染物質吹付法

種 類	質量比(%)
カーボンブラック(チャンネルブラック)*3	2.5
カーボンブラック(試験用ダスト12種)*7	2.5
イエローオーカー(合成黄土)*4	67.5
焼成関東ローム(試験用ダスト8種)*5	22.5
シリカ粉(試験用ダスト3種)*6	5.0

*3) Color black (顔料用カーボンブラック)、粒径0.002/0.028 μ m

*4) Yellow Ochre (顔料用天然黄土)、主成分Fe₂O₃:20.7%
Al₂O₃:13.8% SiO₂:54.0% CaCO₃:0.4%

*5) JIS Z 8901 (試験粉体及び試験用粒子) 8種

*6) JIS Z 8901 (試験粉体及び試験用粒子) 3種

*7) JIS Z 8901 (試験粉体及び試験用粒子) 12種、カーボンブラック

ただし *3) *4) は試験研究機関 *8 で認定したものとする。

*8) 認定は(財)建材試験センターによる。

*日高・川越工場 製造部 塩水・複合課